

# 体育専科教員が配置されており、担任と2人で授業をしている小学校とそれ以外の小学校の比較

小学校では、原則として学級担任が大半の教科を指導することから、体育の指導自体に困難さを感じていたり、子供の多様化に応じた指導ができなかったりといった課題が挙げられる。

そこで、体育の指導に関する専門的知識を備えた体育専科教員を配置している学校の調査結果や取組の事例に注目し、このような課題の解決につながる可能性について分析を行った。

## 体育専科教員について

教育委員会質問紙の「平成29年度に行った児童生徒の体力・運動能力に係る取組の具体的な内容」（質問1-2）に対し、小学校における体育専科教員の配置の拡大を図っていると回答した教育委員会の割合は、都道府県、指定都市、市区町村のいずれも低い値であった（表T1-1）。

体育専科教員は、体育の指導に関して専門的な知識を有している。しかし、児童の発達段階や、小学校における児童と学級担任との関わりの大きさなどを踏まえると、担任と2人で授業を行うことによって、より一層効果的な指導を行うことが可能になると考えられる。

〔表T1-1〕 児童生徒の体力・運動能力に係る取組の具体的な内容として「小学校における体育専科教員の配置の拡大」を選んだ教育委員会の割合

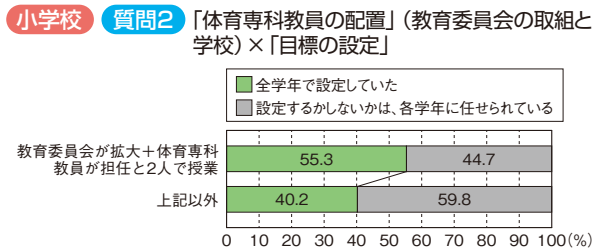
区分	対象数	質問1-2	
		小学校体育専科教員の配置拡大	割合
都道府県	47	7	14.9%
指定都市	20	2	10.0%
市区町村	1,733	42	2.4%
全国	1,800	51	2.8%

## 担任と2人で授業を行っている小学校は、 体育の授業を改善しようとする意識が高い

教育委員会質問紙の質問1-2で「小学校における体育専科教員の配置の拡大」を選んだ教育委員会に属し、平成29年度若しくは平成30年度に常勤又は非常勤のいずれか1人以上の体育専科教員を配置している小学校について考察する。

学校質問紙で、「担任と二人で体育の授業を担当し

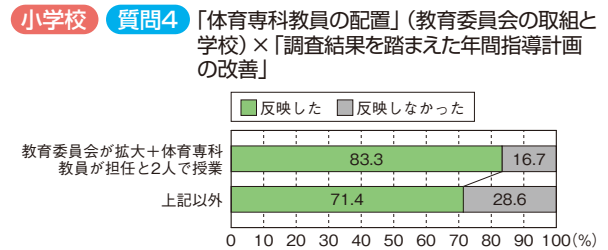
[図T1-1] 学年としての目標を学校としての目標と別に設定している学校の割合



ている」(質問18-3)と回答した小学校(以下、「担任と2人で授業を行っている学校」とする)は、それ以外の全ての小学校と比較すると、「体力・運動能力の向上のための学年としての目標を、学校としての目標と別に全学年で設定していた」(質問2)と回答した学校の割合が15.1ポイント高かった(図T1-1)。

また、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえて、年間指導計画の改善に反映した」(質問4)と回答した学校の割合は11.9ポイント高かった(図T1-2)。

[図T1-2] 調査結果を踏まえて年間指導計画の改善に反映している学校の割合

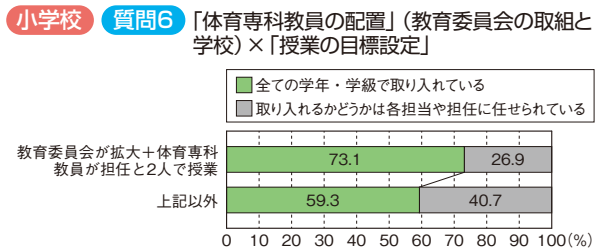


次に、学校質問紙における体育の授業に関する質問に注目してみる。

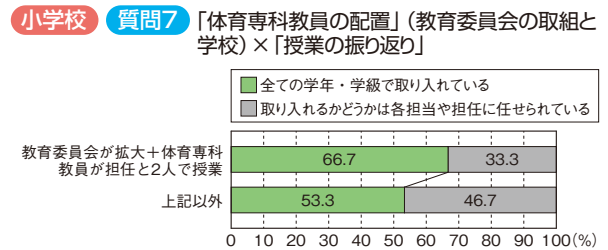
担任と2人で授業を行っている学校は、それ以外の全ての学校と比較すると、「授業の冒頭で目標を児童に示す活動を全ての学年・学級で取り入れている」(質問6)と回答した学校の割合が13.8ポイント高かった(図T1-3)。また、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を全ての学年・学級で取り入れている」(質問7)と回答した学校の割合も13.4ポイント高く(図T1-4)、さらに、「授業中にICTを全ての学年・学級で活用している」(質問10)と回答した学校の割合も6.9ポイント高かった(図T1-5)。

この結果は、担任と2人で授業を行っている学校は、体育の授業を改善しようとする意識が高いことを示している。

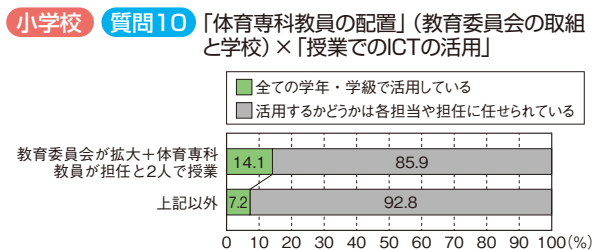
[図T1-3] 体育の授業の冒頭で、目標を児童に示す活動を取り入れている学校の割合



[図T1-4] 体育の授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている学校の割合



[図T1-5] 体育の指導で、授業中にICTを活用している学校の割合



## 担任と2人で授業を行っている学校は、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を活用している割合が高い

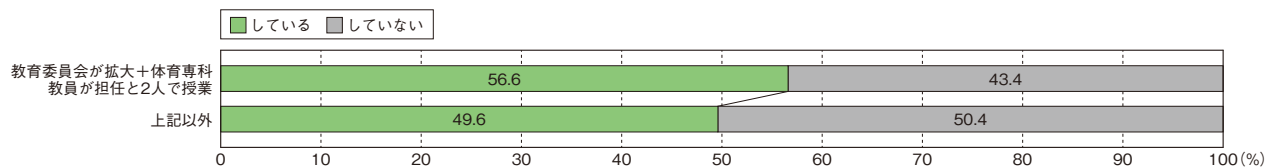
担任と2人で授業を行っている学校は、それ以外の全ての学校と比較すると、「児童の運動やスポーツに関して、近隣の学校間で連携している」（質問21）と回答した学校の割合が7.0ポイント高かった（図T1-6）。また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査「報告書」を「平成29年度中に読んだ」（質問22）と回答

した学校の割合は11.9ポイント高く（図T1-7）、学校のホームページや学校便り等で調査結果を「公開していない」（質問28）と回答した学校の割合も17.9ポイント低かった（図T1-8）。

担任と2人で授業を行っている学校は、それ以外の全ての学校と比較して、調査結果の活用に関する他のいずれの質問についてもポイントが高いことから、調査結果を積極的に活用し、効果的に児童の体力の向上や授業の改善につなげようとしていると考えられる。

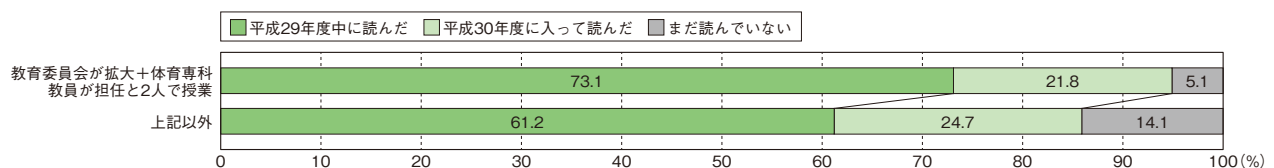
〔図T1-6〕 児童の運動やスポーツに関して、近隣の学校間で連携をしている学校の割合

小学校 質問21 「体育専科教員の配置」（教育委員会の取組と学校）×「児童の運動やスポーツに関する近隣の学校間での連携」



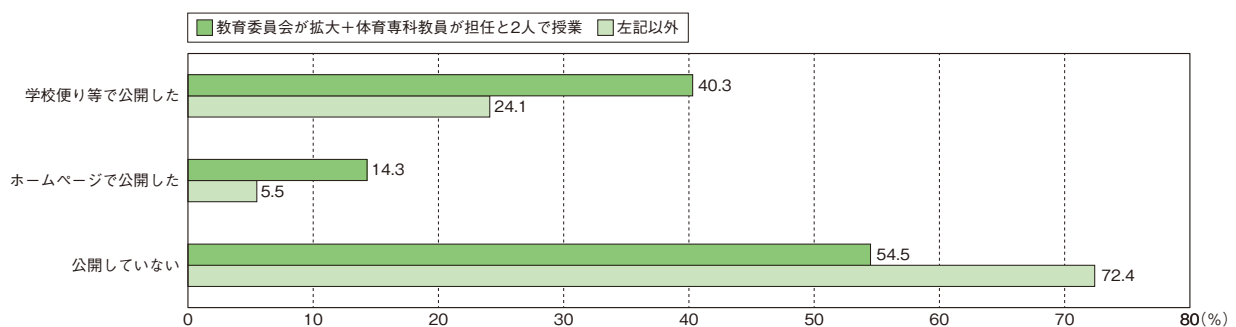
〔図T1-7〕 「報告書」を平成29年度中に読んだ学校の割合

小学校 質問22 「体育専科教員の配置」（教育委員会の取組と学校）×「報告書を読んだ」



〔図T1-8〕 学校のホームページや学校便り等で調査結果を公開した学校の割合

小学校 質問28 「体育専科教員の配置」（教育委員会の取組と学校）×「調査結果の公開」



## 担任と2人で授業をしている小学校と、それ以外の全ての小学校の児童の比較

次に、児童質問紙の結果に注目してみる。

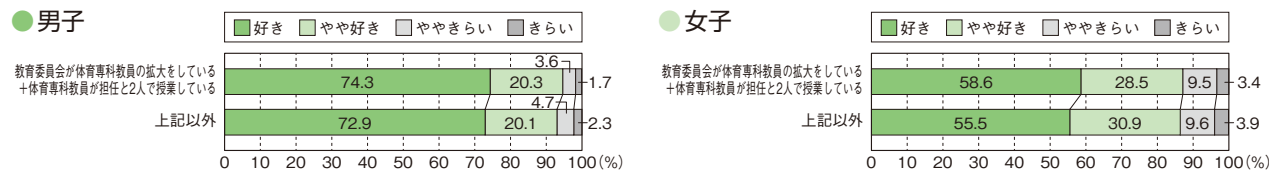
担任と2人で授業を行っている小学校の児童は、それ以外の全ての小学校の児童と比較すると、運動やスポーツが「好き」「やや好き」（質問1）と回答した児童の割合は、男子児童は1.6ポイント、女子児童は0.7

ポイント高かった（図T1-9）。

体育の授業に関しては、「授業の始めに目標が示されている」（質問20）と回答した児童の割合は、男子児童が6.2ポイント、女子児童が9.6ポイント高く（図T1-10）、「授業の最後に学んだ内容をふり返る活動を行っている」（質問21）と回答した児童の割合は、男子児童が2.6ポイント、女子児童が3.7ポイント高かった（図T1-11）。

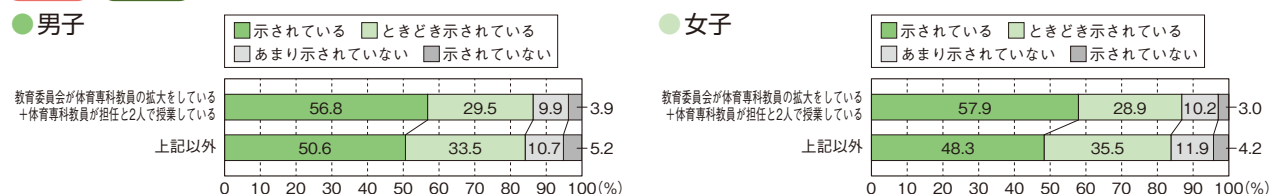
【図T1-9】運動やスポーツをすることが好きな児童の割合

小学校 質問1 「体育専科教員の配置」(教育委員会の取組と学校)×「運動やスポーツが好き」



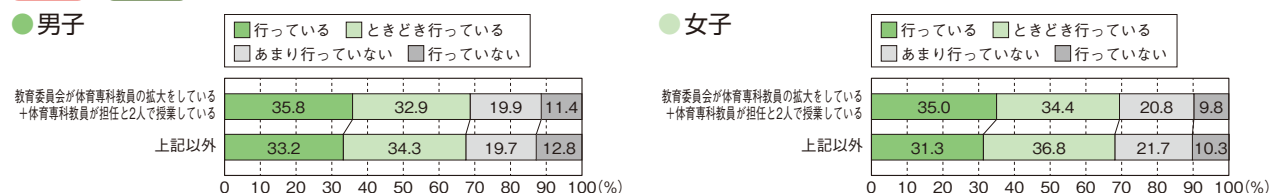
【図T1-10】「授業の始めに目標が示されている」と回答した児童の割合

小学校 質問20 「体育専科教員の配置」(教育委員会の取組と学校)×「授業の目標設定」



【図T1-11】「授業の最後に学んだ内容をふり返る活動を行っている」と回答した児童の割合

小学校 質問21 「体育専科教員の配置」(教育委員会の取組と学校)×「授業のふり返り」



## 担任と2人で授業をしている小学校の事例

ここでは、担任と2人で授業を行っている小学校の事例について考える。

沖縄県糸満市立西崎小学校では、平成28年度から体育専科教員1名を配置し、体育科学習の充実や運動環境の整備、家庭との連携による運動実践の推進などを展開している。

授業では、担任と2人で指導を行うことで、運動が苦手な児童や運動に消極的な児童などを中心に、細かく児童の状況を把握しながら、個に応じた支援を充実させることができた。また、陸上教室や水泳教室、体力向上強化月間の実施、さらに、家族で挑戦する「がんじゅうアップチャレンジ330運動」など、体育専科教員を中心として、年間を通じ様々な取組が展開されている。

その成果として、児童の体力や運動習慣などが改善し、平成30年度では、全学年の男女で昨年の全国平均を大幅に超えるなど、大きな伸びが確認できた。

## まとめ

このように、体育専科教員が担任と2人で授業を行うことにより、学校全体で体育の授業を改善する意識が高まることを示している。さらに、授業の充実が図られることで、体育の授業に対する児童の意識が向上し、その結果として体力の向上につながっていくことが期待できる。

体育専科教員の配置は、単に専門的な指導が行えるという利点があるだけでなく、学校全体における体育の授業の改善を促進するとともに、子供の多様な実態を踏まえ、個に応じた支援を行うことを可能にしている。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、効果的で魅力的な手立てとなり得るものであると考える。